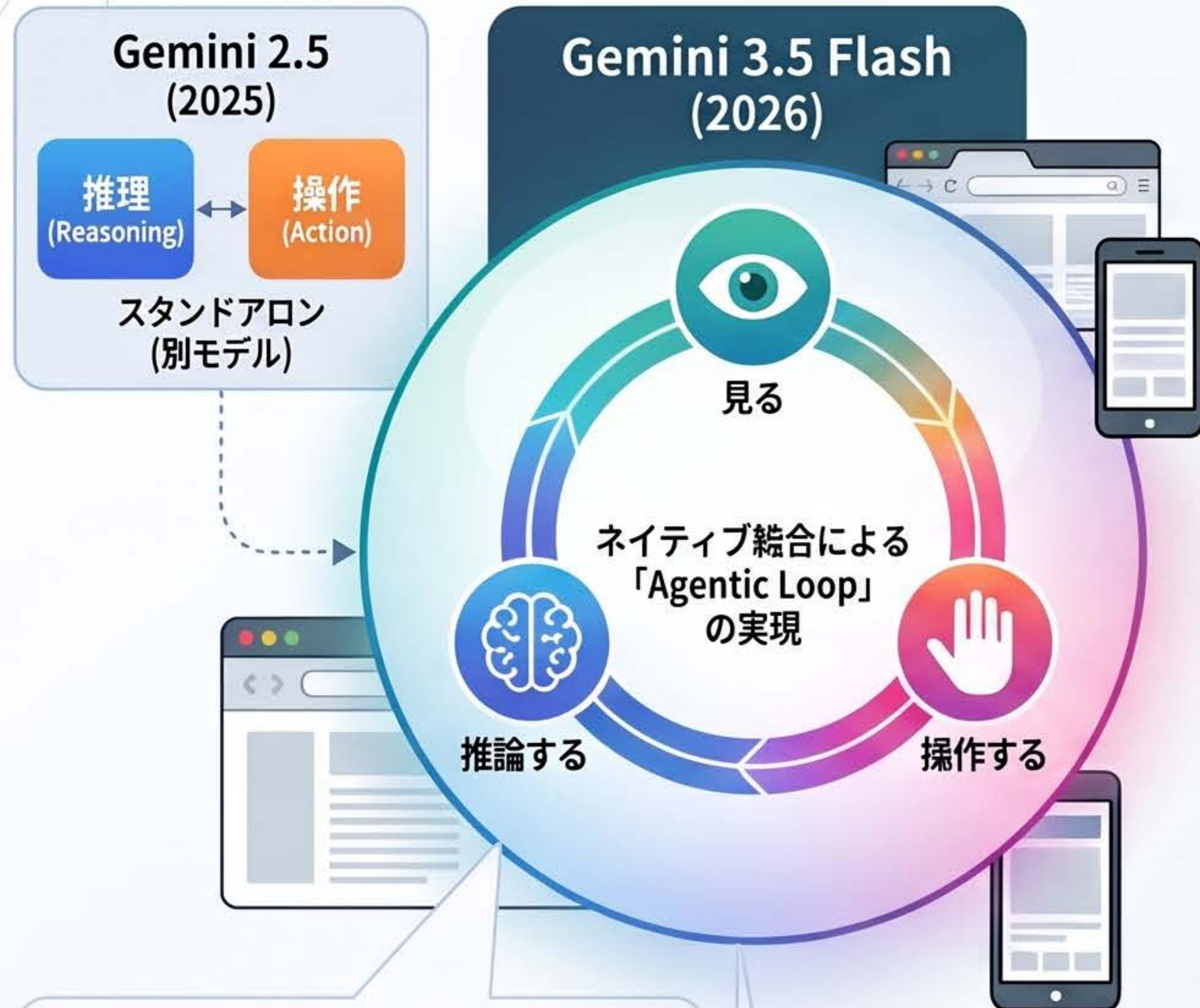


Gemini 3.5 Flashの「Computer Use」が拓く知財実務の未来： 革新的なAIエージェントの活用とリスク管理

技術的進化



1Mトークンのコンテキストウィンドウ
記憶容量: 約8倍 (128K→1M)

圧倒的なコストパフォーマンス
コスト: GPT-5.5の約30% (1M入力で\$1.50)

Intent (意図) フィールド:
あり (操作理由を明記)

知財業務における3つの活用シナリオ

特許・先行技術調査の完全自動化



J-PlotPat等のDBもブラウザ操作して検索、公報PDFの一括ダウンロード、類似性比較までを自動化。

IPランドスケープ作成の劇的な短縮



競合分析や出願人ランキング作成などの作業を、従来の「数日から数週間」から「数時間」へ短縮。

事務管理・期限管理の効率化



特許庁からの通知 (オフィスアクション) をAIが読み取り、期限日や対応事項を知財管理システム (IPMS) へ自動入力。

安全機能とリスク管理

エンタープライズ向け安全機能



意図 (Intent) の明示と監査ログ
すべての操作に対し「なぜその操作を行うのか」という理由を出力し、監査を可能に。



ユーザー確認の必須化 (Human-in-the-loop)
機密性が高く不可逆的な操作の前には必ず人間の承認を要求。



プロンプトインジェクション検知
画面上の閉じテキスト等による悪意ある指示を検知し、タスクを自動停止。

運用上の重大なリスクと対策



機密情報漏洩 (コンテキストダンプ) の防止
未公開技術資料を外製AIに送信してしまうリスクがあり、弁理士法上の守秘義務違反にならないよう厳格な管理が必要。



新規性喪失 (パブリックディスクロージャー) の回避
公開検索エンジンに本公開発案のキーワードを入力すると「公開」とみなされる恐れがあるため、検索内容に注意。



最終責任は常に「人間」に帰属
ハルシネーションのリスクを削減とし、重要な判断局面では必ず人間が内容を精査するプロセスが不可欠。